

困難を抱える若者当事者のニーズに対応する支援に関する考察

Consideration about the support corresponding to the needs of the youth with difficulties

奥井千津子

Chizuko Okui

立命館大学社会学研究科 応用社会学専攻 博士後期課程

Ritsumeikan University Graduate School of Sociology

Major in Applied Sociology Doctoral Program in Applied Sociology

Key words : 当事者の語り ; 生きづらさ ; 支援の見直し

目的

本研究の目的は、困難を抱える若者当事者にどのようなニーズが存在するか、また、ニーズと他の要因との間にどのような関連性が見られるかを明らかにし、より若者に添った支援を見出すことである。

方法

対象者は、「発達障害の診断を受けた若者」5名と、「発達障害の診断を受けていないが社会的困難を抱えた若者」5名であり、若者年齢を20歳から39歳までとして、この年齢範囲で対象者を選定した。

方法は、一定の質問項目を決め、半構造化面接の手法に沿って1時間程度のインタビューから逐語録を作成し、対象者の記憶が曖昧な場合は保護者から補足的な聞き取りを行ない、知的障害を伴う発達障害の診断を受けた若者や、精神的に不安を感じる若者については保護者の同席を了解した。

本研究では、社会的困難を抱える若者のニーズを明らかにするために当事者の語りを重視している。この語りを概念化するために、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ (以下、M-GTA と記す) (木下 2003 ; 2007) に基づいて分析を行った。

本研究結果は主にソーシャルワークの現場において期待され、研究者が研究対象者を介して実践するという条件設定と、ソーシャルワークの実践者が研究対象者の視点を介して現実場面において実践活用するという条件設定の組み合わせが成立しており、そうした点で、M-GTA が分析方法としてふさわしいと考えられた。

倫理的配慮においては、立命館大学の研究倫理審査委員会で、倫理的配慮における審査を受けて承認を得た。研究対象者には、研究の趣旨と方法を伝え、研究への参加は任意であり、参加しないことで不利益を被ることがないことを伝えるとともに、プライバシーの保護に関する説明を行い、書面による同意を得た。

結果と考察

今回の研究結果では、対象者の若者の多くにいじめを受けていた事実を家族にひた隠しにしていたことが認められ、その中には不登校を経験しその後引きこもりと

なった若者もいた。また、いじめの原因となった発達障害の特性を、当時は理解されておらず家族のエンパワメント不足や他者からの受容が得られず苦痛の学校生活を止むを得ず強いられていた。このことは、困難を抱える若者に発達障害が関わっていたことが示唆される。また、耐え難い気持ちの発散手段として暴言・暴力や危険行動を起こした罪悪感は、今でも若者自身に負の感情を想起させている。

また、友人関係や家族との均衡を保つために偽りの自分である「良い自分」を作り上げ、「素の自分」を表出することなく思春期を過ごしたことが認められた。その一方で、生きづらさを解消するためにとった「解消法」は、一人での時間を過ごすことが多く、結果として「解消法」になっていなかったことが明らかになった。

アイデンティティを築くべき重要な時期に必要な体験を出来なかった結果、自己評価が低く、他者との信頼関係が未成熟等の課題を持ちながら成長することになり、将来に対して過度の不安心理を抱えていることが対象者の多くに認められた。また、支援者等の他者を受け入れる緊張感や安心感の会得の欠如が見受けられた。

現在、対象者の多くが行政やNPO等の支援プログラムに参加して、就労などに向けた社会的スキルの必要性を感じている。しかし彼らは、一般的な若者がごく普通に楽しんでいる余暇の過ごし方や人と普通にかかわることができる対人スキルをより一層切望していることが認められた。その切望をかなえるには、家庭という第一の場所と職場や学校といった第二の場所の中間的に位置づく居心地の良い第三の居場所、即ち「素の自分」が受け入れられる場所の獲得が求められるのではないだろうか。

今回の研究によって明らかになった当事者のニーズから、今後の若者支援では「自由度の高さ」と「個別性」が必須となってくるのではないかと考えられる。

引用文献

- ・木下康仁 (2003) 『グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践 質的研究への誘い』弘文堂
- ・木下康仁 (2007) 『ライブ講義 M-GTA 実践的質的研究法 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチのすべて』弘文堂